

> 学生支援

手厚い就職支援プログラム

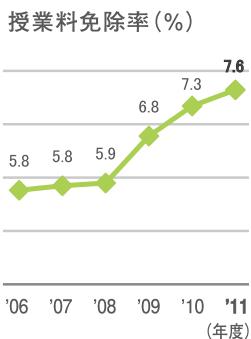


山形大学では、学生の入学時から卒業後まで、私立大学に負けない手厚い就職支援プログラムを実施しています。1～2年次の学生に対しては、基盤教育においてキャリア開発科目を設け、早期から進路を考えるきっかけとして1・2年次向けの就職セミナー、公務員や教員試験対策の説明会を実施しています。就職活動が始まる3年次以降においては各種ガイダンスやセミナー、企業説明会の開催はもちろんのこと、キャリアカウンセラーによる個別指導、相談や面接トレーニングなども行っています。

加えて、首都圏への高速バス料金の半額補助や、県内有力企業バストourなどの山形大学独自の取り組み、また、就職活動を支援する学生キャリアサポートによる、内定を獲得したキャリアサポートによるエントリーシート添削や就職活動に関する相談の受付など、学生による学生目線での就職支援体制が整っているのも特徴です。

このような取り組みにより、平成24年3月卒業生の就職率は、8年連続で全国の国公立大学の平均以上となる、95.4%となっております。

奨学金制度の充実



※'11は、東日本大震災による被災学生に係る授業料免除で、運営費交付金により措置された136百万円を除いています。

「何よりも学生を大切にする大学」を目指して、学生の修学支援にも力を入れております。本学独自の様々な奨学金制度を設けています。

平成20年度にスタートした「YU Do Best奨学金」は、学生が存分に勉学に励み、生活できる教育・研究環境を整備するために創設された本学独自の奨学制度です。

さらに、東日本大震災により被災した学生への支援策として、授業料・入学料の免除枠の拡大、既存の「山形大学学生支援基金奨学金」制度の貸与金額及び返済期間についての弾力的な対応、また、返還不要の奨学金として支援する「山形大学被災学生支援奨学金」制度の制定、学生支援及び本学の教育研究環境の整備のための資金として活用するための「山形大学震災復興支援基金」を創設し、支援体制を整えました。

本学では、引き続き社会情勢や経済情勢など状況に応じて柔軟な学生支援に努めます。

(参考)

本学独自の主な奨学金制度

「YU Do Best 奨学金」

学部3年生(医学部医学科は5年生)を対象。返還義務のない給付奨学金(月額3万円)を2年間給付
「山澤進奨学金」～山形俊才育成プロジェクト～

返還義務のない給付奨学金(月額5万円)に加えて、本学では受給者の入学料・授業料を全額免除
→ 4年間で総額約480万円(医学部医学科の場合、6年間で総額約710万円)

「エリアキャンパスもがみ土田秀也奨学金」

山形県最上地区の学生を対象。返還義務のない給付奨学金(月額4万円)に加えて、本学では受給者の入学料・授業料を全額免除

→ 4年間で総額約434万円(医学部医学科の場合、6年間で総額約637万円)

「学生支援基金奨学金」

授業料等の支払いが一時的に困難な学生に、使途が学費納付の場合は5万円を単位とし上限30万円まで、生活費補填の場合は1万円を単位とし上限20万円まで貸与

「被災学生支援奨学金」

東北地方太平洋沖地震が原因で被災したことにより授業料の全額または半額が免除となる学生を対象に、返還義務のない給付奨学金を最長で2年間給付

→ 全額免除の学生については月額14,000円、半額免除の学生については月額7,000円



商店街活性化を目的に活動する工学部の学生チーム「アットストリート」。米沢在住の学生と、商店街の方々が交流を深めた「商店街でワンコイン晚餐会」の一幕

山形・東北を元気に!～山形大学・元気プロジェクト～

「山形大学を元気にすること」を目的に、平成18年度にスタートした「山形大学・元気プロジェクト」は、より積極的に社会に出て、多くのことを学んでほしい、という思いから、平成24年度より「山形及び東北を元気にすること」に目的を拡大して活動しています。元気プロジェクトには、学生が友人やクラス・サークルの仲間達と自由に応募することができ、採択された場合の実施経費補助の上限も、1団体あたり30万円から100万円にスケールアップ、学生の意欲的かつ主体的な活動を支援しています。

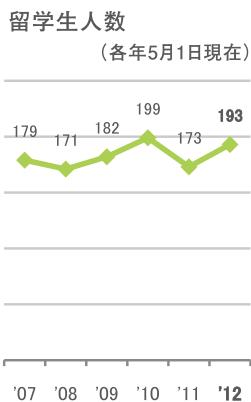
平成23年度は、米沢の商店街活性化や、高齢者宅の除雪ボランティアなどのプロジェクトが行われました。その中でも最優秀活動賞に選ばれた商店街活性化プロジェクトについては、経済産業省が主催する「社会人基礎力育成グランプリ2011」決勝大会に出場しており、その取り組みが高く評価されました。

山形大学では、今後も学生の課外活動を積極的に支援し、「学生が主役の大学創り」を行っていきます。

平成23年度「山形大学・元気プロジェクト」一覧

	プロジェクト名	実施内容
1	地域の魅力再発見! やまがた3Dマップ	・山形大学及び県立博物館周辺の店舗等の情報を収集し、マップを作成する
2	3.11以降、今の学びを創り出す。	・被災地の経済復興のためのセミナー、被災地に学ぶスタディツアーの実施・被災衣類、支援物資を再利用した商品の開発、販路の模索
3	SCITAの!科学はこんなにも身近!	・SCITAセンターと「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト」の活動を中心に、幅広い年齢層に向け、科学に親しむ機会を提供する
4	地域高齢者宅の除雪 ボランティア活動	・米沢市南部地区民生委員と連携して、高齢者宅での除雪を行う
5	学生と商店街を繋げ!! "縊" づくりからの商店街活性化	・米沢在住の学生と商店街との交流会「商店街でワンコイン晚餐会」の開催
6	「走れ!! わあのチャリ」	・不用自転車を修理し、被災地へ提供することを中心とした、被災地復興支援プロジェクト

国際交流を支援



*'11は、東日本大震災の影響
により減少しています。

山形大学を代表して、2体のロボットがケニアとタンザニアを表敬訪問しました。これは、山形大学の国際交流の取組が発端となり実現した出来事です。

きっかけは、大学間交流協定締結の目的で国際交流担当副学長と工学部長がケニアとタンザニアを訪問した際、現地の日本大使から、山形大学のロボット研究技術を現地で紹介して欲しいとの要請があったことから実現したものでした。工学部機械システム工学分野の教員と学生が両国を訪問し、大学間協定を結んでいる3大学の学生や教員、タンザニアの政府要人や現地の子供たちに向けてデモンストレーションと講演を実施しました。ロボットが見せる人間のような複雑な動きに、現地の参加者からは大きな歓声が上がりました。

国際交流に力を入れている山形大学では、平成23年度は新たにタンザニアの大学との大学間交流協定、アメリカ、台湾及びドイツの大学との学部間交流協定を締結し、大学間交流協定は21ヶ国48機関、学部間交流協定は20ヶ国68機関となりました。また、外国人留学生についても、平成24年5月1日現在、27の国と地域から193人が在籍しており、山形大学で学んでいます。

本学では、国際社会との連携促進のため、国際交流の基本指針である「山形大学グローバル化のための基本方針」を平成22年度に策定しており、この方針に基づいて留学生の受入を促進するなど、大学の国際化に努めています。平成23年度には、学生が海外で研究を行う教員のもとで1週間程度指導を受けることができる海外スクーリング制度、帰国した留学生に対する現地フォローアッププログラム、本学において研究者とともに短期研究を行う機会を提供するホームカミングプログラムなどの制度を新たに創設し、学生の海外での学習機会の拡大、及び留学生支援の充実を図っています。

2体のロボット「ナガレグレー」と「大久保スペシャル」によるデモンストレーションに注目する現地の参加者たち

